原 智恵子さんを偲んで

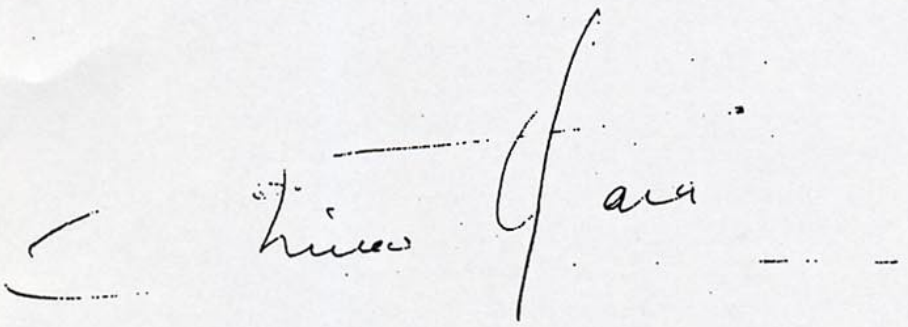
—— 2台のピアノの夕べ ——

IN THE MEMORY OF
MADAME CHIEKO HARA DE CASSADO

MUSICAL SOIREE – TWO PIANOS

2002年3月17日（日） 19:00

新宿文化センター 小ホール



原智恵子さんのサイン．1952年5月2日 上智大学でのリサイタルにて．

プログラム PROGRAM

1.　モーツァルト：2台のピアノのためのソナタ K448
　　W. A. MOZART: SONATA FOR TWO PIANOS, K448

＊ モーツァルトらしい華麗さ・優美さはもとより，2台ピアノの醍醐味である躍動感をも併せ持つ，才気に満ちた作品．急・緩・急の3楽章形式．（第1ピアノ：小山，第2ピアノ：益子）

2.　サン＝サーンス：ベートーヴェンの主題による変奏曲 作品35
　　C. SAINT-SAENS: VARIATIONS ON THE THEME OF BEETHOVEN, OP.35

＊ フランス近代音楽の先駆者サン＝サーンスの残した多数の2台ピアノ作品の中でも，その古典的格調が特に名高い作品．ベートーヴェンのピアノソナタ第18番の第3楽章中間部からとった主題が，緩急織り交ぜた多様な変奏で彩られる．（第1ピアノ：益子，第2ピアノ：西原）

3.　シャブリエ：3つのロマンティックなワルツ
　　E. CHABRIER: THREE ROMANTIC WALTZES

＊ シャブリエもフランス近代の作曲家であるが，創意と機知に富む個性的な作風で知られ，サン＝サーンスとはまた違った意味で，後続の作曲家に多大な影響を与えた．この3曲のワルツでは，高音から低音までが縦横に使われ，独特の煌びやかな雰囲気が現出する．（第1ピアノ：小山，第2ピアノ：西原）

※ 曲の間に，約10分程度の休憩を入れます．終演後，原さんの弾くショパン〈スケルツォ第2番〉のSP盤時代の録音を会場で流します．

昭和25年の2台ピアノの演奏会 ――― 西原 昌樹

昭和25（1950）年，フランスの名ピアニスト・教師で，原 智恵子さんの恩師でもあるラザール・レヴィが来日し，当時のビッグニュースとなった．レヴィは約1ヵ月の滞在中，各地で精力的に演奏・講演を行ったが，帰国直前には告別演奏会が二晩にわたって催された．第一夜は，弟子との2台ピアノの演奏会であった（1950年11月4日）．レヴィは，野辺地勝久さんとモーツァルトを，安川加壽子さんとサン＝サーンスを，そして最後に原さんとシャブリエを演奏した．本日は，その第一夜と同じプログラムを再現する．

告別演奏会第二夜（1950年11月5日）はコンチェルトの夕べで，レヴィはフランク〈交響的変奏曲〉，サン＝サーンス〈ピアノ協奏曲第5番〉の独奏をつとめたのち，最後にバッハの〈3台のピアノのための協奏曲〉を，原さん，安川さんと共演した．これらは，青柳いづみこさんの著書『翼の生えた指』（安川加壽子評伝・白水社刊）で得られた，貴重な情報であることを付言しておきたい．

昭和25年当時の，日本の庶民の生活水準は，口を糊することが精一杯で，ピアノなど非日常のものであった時代である．グランドピアノを2台も3台も使ったコンサートは，一般聴衆にとっては，我が目と耳を疑う，夢のようなひとときであったろうことは想像に難くない．その時代に，恩師のために3台ものグランドピアノを準備すべく東奔西走した原さんと安川さんのご苦労は並大抵のものではなかったはずである．これは，日本中のホールにグランドピアノが完備している，恵まれた時代に生きる私たちが銘記すべき業績であり，日本の2台ピアノ史のエポックであると言っても過言ではないと思う．

原 智恵子の真実 ――― 川崎 文彰

美しい人である．原 智恵子さんの若き日のポートレートほど人を強く惹きつける写真は，そう目にすることはできないだろう．映画ファンだった私でも，これほど飽かず眺めてしまう写真は見たことがなかった．どんな女優にもひけをとらない美貌と，輝くような気品，知性，そしてピアノの実力までも兼ね備えたひとは，昭和12（1937）年の撮影当時もいなかったし，今でも日本中を探してもいないと，私は断言できる．

2台のピアノの演奏に情熱を傾ける私たちにとって，原さんが半世紀以上も前に，日本で，2台ピアノのコンサートの開催に奔走したという事実ほど励みになることはない．困難な時代に，原さんの熱意と行動力で初めて実現したコンサートだった．今夜は，〈東洋の奇蹟〉と称えられた原さんの功績の一端を辿ることで，皆さんとともに，伝説の，偉大なピアニストを偲ぶひとときにしたいと考えている．

原さんの訃報に接してから，3ヵ月の間に私たちが集めた声のごく一部を，以下に紹介したい．

◆ピアノアートサロン社長 倉林京子さんとの会話より◆
あなたたちの世代だと，原さんのことは知らないかもしれないけど，私の世代で，原智恵子の名前を知らない人はいないでしょうね．・・・・・・いま有名で活躍されているような演奏家でも，原さんに昔お世話になったっていう人はずいぶんいるからね．

◆川原晃さんの個人ホームページ〈Travel Diary〉に寄せられた北野一郎さんの追悼文より◆
今まで鍵盤上で氷の上を滑るように乱舞していた彼女の両手が突如ハタと止まった．・・・じっと正面を見つめていた彼女は静かに立ち上がり聴衆に向かって「まことに申し訳ありません．次の曲がどうしても思い出せないのです」と言って深々と頭を下げたのである．聴衆から一瞬どよめきが起こったが直ぐに万雷の拍手に変わり，数人の女学生が花束を持って壇上に駆け上り彼女の熱演を讃えたのだが苦渋に満ちた顔からは笑みが消えていた．・・・私は端正で律気な巨匠の真髄に触れた思いがしてその後益々，原智恵子ファンになっていったのである．（昭和25年，甲南高女講堂のリサイタルでのエピソード）

◆家永 勝さん（東京国際大学理事）が雑誌『ショパン』2月号に寄せた追悼文より◆
・・・いつの間にか独唱科から合唱科に籍が変わってしまった．びっくりして原先生に泣きつき，お願いして元の科に戻してもらった．先生には，日本からくる人は何もわからないのにすぐに曖昧な態度をとるからこんなことになると叱られてしまった．ここはヨーロッパだからとも言われた．・・・宿舎となったホテル内を，カサドと原先生は，いつも実に仲睦まじく腕を組んで歩いておられた．そして先生の表情は心よりお幸せそうで，輝いていらした．（スペインのサンチャゴ・デ・コンポステラでの国際音楽講習会でのエピソード）

◆今回のコンサートへお問合せをいただいた宮森さんのお話◆
50年前，私は二十歳でした．・・・・・・世紀のピアニストにサインをもらうということで，非常に緊張したのを憶えています．（宮森さんは，原さんの貴重なサインの写しまで同封して下さいました．宮森さんのご諒解を得て，このプログラムの表紙に使わせていただいた次第です．御礼申し上げます）

※ このコンサートを開くにあたり，佐藤尚宏さん，日本コロムビアの中里順夫さんには，大変お世話になりました．厚く御礼申し上げます．

＊演奏者紹介＊　PLANISTS

西原 昌樹	MASAKI NISHIHARA	1972年岡山県生まれ. 上智大学卒業.
小山 佳枝	KAE OYAMA	1974年福岡県生まれ. 慶應義塾大学卒業.
益子 徹	TETSU MASHIKO	1976年栃木県生まれ. 宇都宮大学卒業.

＊グループPCC コンサート記録＊

2001年2月24日 板橋区民会館小ホール
2台のピアノの夕べ 〈サン＝サーンス(I)とダマーズ〉 <SAINT-SAENS ET J.-M. DAMASE>
ダマーズ: ソナチネ, パストラール, トッカータと終曲
サン＝サーンス: アルジェリア組曲, 前奏曲とサラバンド, ヴィクトル・ユゴーへの賛歌

2001年6月2日 トモノホール(市ヶ谷) 2台のピアノの夕べ
〈セミクラシック(I)とサン＝サーンス(II)〉 <DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS>
コール・ポーター・メドレー, ナザレー: コンフィデンシアス, R. R. ベネット: 組曲
サン＝サーンス: アラブ綺想曲, ロマンス, ヘラクレスの青年時代

2001年10月13日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ
〈アングロサクソンとサン＝サーンス(III)〉 <ANGLETERRE ET ST.-SAENS>
ローリー: 組曲, V. ウィリアムズ: グリーンスリーブス幻想曲, ブレイク: 舞曲集
サン＝サーンス: 春はきたりて, 交響曲第1番(2台ピアノ版)

2001年11月24日 榎坂スタジオ クレメンティ生誕250年に向けて——ピアノソロと連弾
<PRE-250TH ANNIVERSARY OF MUZIO CLEMENTI>
連弾ソナタ OP.3-3, OP.14-3, 独奏ソナタ OP.24-2, 打楽器伴奏付ワルツ OP.39 より

2002年1月6日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ
〈セミクラシック(II)とサン＝サーンス(IV)〉 <DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS>
アレッタ・オハーン: 主題とジャズ変奏曲, ギロック: パリ2題, アストル・ピアソラ・メドレー
サン＝サーンス: 前奏曲とフーガ OP.99-1, バッハ＝グノー: アヴェマリア, グノー: 協奏組曲

＊グループPCC 次回のコンサートは, 2002年5月11日(土)19:00 新宿文化センター小ホールで, 〈2台ピアノの夕べ——パリとウィーン〉を開催します. ロジェ・ブートリ, エミール・パラディル, サン＝サーンス, シューベルト, モーツァルトの2台ピアノ作品をとりあげます.

＊ご意見・ご感想をお寄せ下さい. お手紙は 〒169－8799 新宿北郵便局留め オフィスPCC 宛. e-mail は pccpiano@hotmail.com にどうぞ.

原　智恵子さんについて

原　智恵子さん（1914－2001）は，日本の女性ピアニストの草分けである．パリ高等音楽院ピアノ科を日本人初のプルミエ・プリを得て修了．昭和12年には，日本人で初めてショパンコンクールに参加し特別賞（聴衆賞）を受賞，〈東洋の奇蹟〉と称えられた．戦前と戦後しばらくは日本でも活躍し，昭和30年代までは日本で最も人気のあるピアニストとして，日本中の聴衆を魅了した．のちに，チェロの巨匠ガスパール・カサドと結婚し，〈デュオ・カサド〉は欧米で圧倒的な熱狂をもって迎えられた．カサドの死後は，「カサド国際コンクール」を主催して多くの音楽家を育てた．

CHIEKO HARA, MADAME GASPAR CASSADO

Chieko Hara (1914-2001) was the pioneer of female pianists in Japan. She received a special prize, voted by the audience, at the International Chopin Piano Competition in 1937, which helped earn her the nickname "Miracle of the Orient" for her virtuosity.

She married violoncello maestro Gaspar Cassado, and "Duo Cassado", violoncello and piano duet, received high acclaim throughout Europe.

After her husband's death, Chieko Hara organized the International Gaspar Cassado Violoncello Competition, through which she fostered many young musicians.

The program for this concert is the selection from her 1950 concert.